

# I 現状

## 1 有機農業等についての兵庫県の状況

資料 2 - 2

### (1) H4からの取組概要

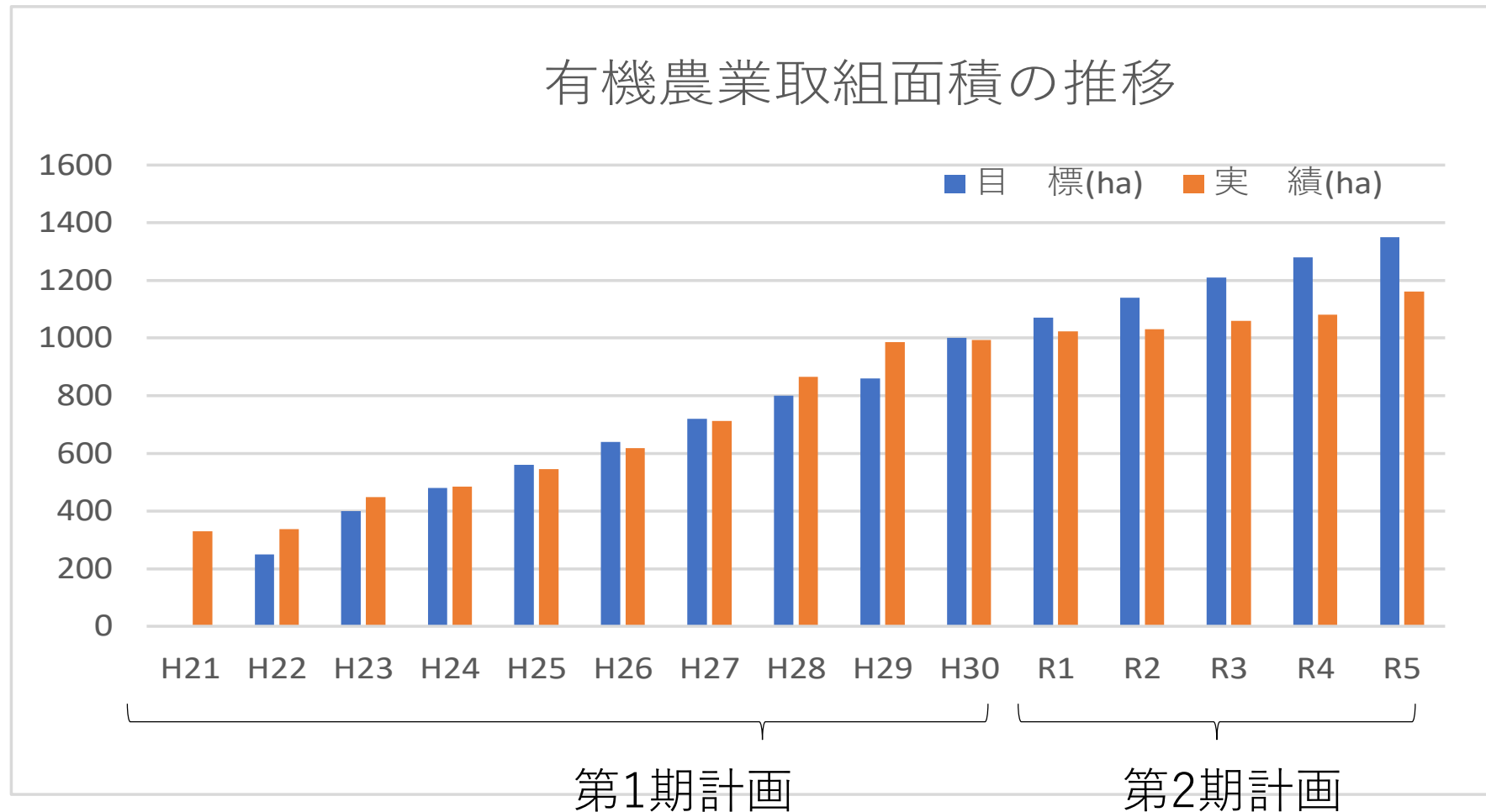
年 度	内 容 等
1992 (H4)	環境創造型農業推進方針を策定
1993 (H5)	全国に先駆けて兵庫県有機農産物認証制度を創設
2001 (H13)	ひょうご安心ブランド農産物認証制度を創設
2002 (H14)	但馬地域でコウノトリ育む農法の確立・普及
2009 (H21)	兵庫県環境創造型農業推進計画を策定
2019 (H31)	兵庫県環境創造型農業推進計画（第2期）を策定
2021 (R3)	ひょうご農林水産ビジョン2030で2030年までの目標を設定
2023 (R5)	有機農業を含む環境創造型農業推進施策検討会設置
2024 (R6)	有機農産物等の流通・販売に関する検討会設置

#### 【近年の情勢の変化】

- ▶ SDGsの取組推進や有機農業への関心の高まり
- ▶ 国の「みどりの食料システム戦略」の推進
  - ・ 2050年の目指すべき姿として、農林水産業のCO<sup>2</sup>ゼロエミッション化
  - ・ 有機農業の取組面積を耕地面積の25%に拡大 など
- ▶ 農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務
  - ・ 日本の平均気温は、100年あたり1.26°Cの割合で上昇
  - ・ 降雨量の増加等により、災害は激甚化傾向にあり、農業での被害が発生

## (2) 有機農業取組面積

有機農業実施面積は**着々と増加**  
近年は伸びが**鈍化**し、目標との差が拡大



## 耕地面積に占める有機農業の割合

- ▶ 耕地面積に占める有機農業の割合は、全国平均より**本県の方が高い**
- ▶ 本県有機農業のJAS認証取得割合は約**2割**（全国平均は約6割）

※消費地に近く、直売の取組が多いため、JAS認証なしでも販売しやすい状況といえる

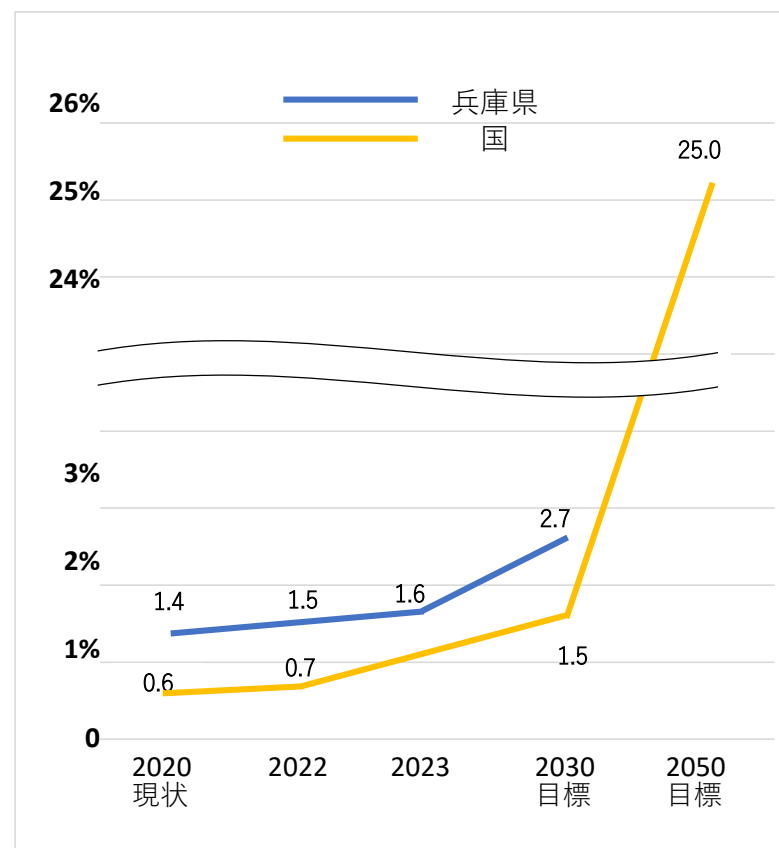
＜国と本県の有機農業取組面積＞

	国	兵庫県
2020年	25,200	1,031
2022年	30,300	1,081
2023年	-	1,161
2030年目標	63,000	1,850
2050年目標	1,000,000	-

※国はみどりの食料システム戦略、  
県はひょうご農林水産ビジョン2030の目標値

＜有機農業取組に対するJAS認証取得割合＞

	全国平均	兵庫県
2020年	56%	20%
2022年	62%	25%



耕地面積に占める有機農業の割合  
(現状と目標)

## 2 有機農産物等の流通・販売や理解促進に対するこれまでの取組

# 4

### 1 有機農産物等の流通・販売促進

#### (1) 目的

有機農業を含む環境創造型農業への取組を進め、実需者や消費者に有機農業・環境創造型農業で生産された農産物の価値を発信するとともに、有機農産物の量販店での取扱増加など有機農産物の需要の拡大を促進する

#### (2) 取組

- ・「兵庫県認証食品」の取得や有機JAS制度の理解促進
- ・流通・販売事業者と連携した流通に関する研修会や、流通・販売事業者と有機農業者の商談会を開催

#### (3) 主な実績

- ・令和6年3月末時点で、兵庫県認証品目数は2,354食品
- ・令和3年度の県民モニターアンケートでの認証食品認知度は50.3%
- ・有機商談会を通じて令和2年度に1生産者、3年度に2生産者が取引を開始。令和5年度の商談会で1生産者が商談交渉中

※令和4年度はコロナ禍のため休止



研修会・商談会（神戸市）

- ・兵庫県認証食品の品目数は着実に増加。認知度も向上。
- ・有機の商談会では、生産ロットが小さい、出荷時期や量が不安定などにより、流通事業者からのニーズに答えられず商談が成立しない事例が多く、ロットの拡大や生産者と流通事業者の情報共有の強化等が必要

## 2 県民の理解促進

### (1) 目的

生産現場での体験等を通じて、消費者に対して有機農業の特性や難しさ、魅力等を発信し、有機農産物の価値を共有できるように生産者と消費者の相互理解を促進する。

### (2) 取組

- ・ 農業者団体等が主催する環境学習・食育研修会の開催
- ・ 有機農業体験などの実践活動や有機農業教室・講座の開催

### (3) 主な実績

令和5年度は、有機農業教室を県内12カ所で年間10日間、定期開催  
約500名の消費者が受講



有機農業教室（県立農業大学校）

有機農業教室では、多数の消費者が受講しているが、同じ人が毎年受講するなど固定化しているため、さらなる拡大には新たな手法での魅力発信が必要